

本日の演目より



能「花月」かげつ
息子が行方不明になったことを契機に出家した僧（ワキ）が諸国修行の途上、春爛漫の清水寺に立ち寄り、門前の者（アト）の勧めで都で人気の遊芸の少年花月（シテ）の芸を見る。花月が小歌を歌ったり、清水寺の縁起を語る曲舞を見せるうち、僧は、この花月こそわが子！と気づき親子は再会を果たす。花月は喜んで羯鼓を打ち、藤をすり、七歳で天狗にさらわれてからのことを物語ると、父に伴われて修業の旅に出る。まさに「去来く」の華やかな一曲です。



能「屋島」やしま
旅僧一行（ワキ・ワキツレ）が、春霞立つ讃岐国・屋島の浜を訪れ、老いた漁師（シテ）に宿を借りる。僧が都から来たこと知った漁翁は、都を懐かしみ屋島の合戦の有様を物語ると、実は自らは義経の亡霊だとほめかして姿を消す。その後、僧の夢に修羅道に堕ちた義経の霊が往時の甲冑姿で現れ、命にかえても武名を重んじた勇猛な戦いぶりを再現すると、再び修羅の地獄へと戻っていく。「平家物語」のスーパーヒーロー・義経を主人公とする「語り物」屈指の名曲です。



能「蟬丸」せみまる

延喜帝の第四皇子で首目の宮・蟬丸は、父帝の命により、鎌坂山に捨てられ出家させられる。これも父の慈悲心なのだと健気に振る舞う蟬丸に、廷臣・清貫（ワキ）は涙しながら簀・笠・杖を渡して去る。代わって様子を見に来た博雅三位（アト）が薬屋を拵え世話をする。一方、蟬丸の姉・逆髪も何の因果か狂乱し、髪が逆立つという異形の病によつて瘦まれ流浪の身となつていた。その逆髪もまた鎌坂山に通り着く。すると蟬丸の爪弾く琵琶の音が、数奇な運命を背負う姉弟の、見えない糸が繋がり二人は再会するも、逆髪はまた旅立ち、蟬丸は一人残される。能には珍しく、救われないまま終曲する「公者定離」―悲しい余韻の残る曲です。



能「葵上」あおいのうえ
光源氏の正妻・葵上を苦しめる物の怪の怪の正体を明らかにするべく、日巫女（ワキ）が呼ばれる。巫女の梓弓の音にひかれて現れたのは、六条御息所の生き霊（前シテ）だった。深い怨みを込めて葵上の枕辺に打ちかかる御息所の霊。その調伏のため修験行者・横川小僧（ワキ）が加持祈祷をすると、鬼と化した御息所（シテ）が現れるが、ついに祈り伏せられ成仏する。「車争い」に端を発する「源氏物語」の有名シーンを描いた人気曲。舞台上の小袖は葵上を表します。



国立能楽堂アクセス
JR総武線「千駄ヶ谷駅」より徒歩約5分
都営大江戸線「国立競技場駅」【A4】出口より徒歩約5分
東京メトロ副都心線「北参道駅」【出口1】より徒歩約7分

【入場無料・御来場歓迎】
令和三年七月三日（土） 午前十時始

東京青嶂会

「能楽観世流」

於 国立能楽堂
東京都渋谷区千駄ヶ谷四一―八一―
電話 〇三（三四二二三）一三三一（代）
主催 青嶂会 味方 玄

向暑の候
皆さまにはますますご健勝の御事とお慶び申し上げます

この度、東京にて二度目の「青嶂会」を開催させていただき運びと相成りました。昨年の同じ時期に開催を予定いたしておりましたが、未曾有の疫病蔓延のためやむをえず一年延期いたしました。会員みな、稽古も最終段階に入ってからからの延期は、やはり辛く、心にポツカリと穴が空いたような状態で、しかも状況悪化により稽古も続けられなくなりました。

その後稽古は徐々にオンラインも使いながら再開。今年の春になり、会開催に向けてなんとか気持ちを持ち直し、今一度舞台と向き合い、心身を激励し稽古を重ねました。

京都より片山九郎右衛門先生、東京の観世鏡之丞先生、観世喜正先生はじめ諸先生、諸先輩に御出演賜り、社中が師事させていただいている、また憧れのお囃子、おワキ、お狂言の先生方にもお相手をお願いしお助けいただき、青嶂会会員一同、懸命に勤めさせていただきます。どうか、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

青嶂会主宰 味方 玄

青嶂会 味方 玄 (みかた しずか)
京都市上京区寺町通鞍馬口下ル高德寺町355-5 TEL 075-213-1774
<https://theatrenoh.com/>

- ◎主催者の許可なき写真撮影・録音・録画は一切ご遠慮ください。
- ◎会場内では、携帯電話・スマートフォンなどの電源はお切りいただくか、鳴動しない設定をお願いいたします。
- ◎各演目の上演予定時間はあくまでも目安です。あらかじめ余裕をもってお越しください。
- ◎素謡は一部省略する場合がございます。

《感染症対策へのご協力をお願いいたします》

- 会場内ではマスクの着用をお願いいたします。
- ご来場者全員に検温と手指の消毒を実施し、37.5度以上の発熱がみられる場合はご入場をお断りいたします。
- 受付にて来場者カードのご提出（お名前・ご連絡先を記入）をお願いいたします。

素 謡：舞い手、囃子方は置かず、謡のみをシテ、ワキなどのそれぞれの役謡と地謡で聞かせる上演方法。
舞囃子：能の見せ場となる一部分を面や装束はつけず、紋付・袴姿にて、シテ、囃子、地謡で演ずる、通常15分～30分程度の略式の上演形態。
仕 舞：能の見せ場となる一部分を面や装束はつけず、紋付・袴姿にて、シテと地謡のみで演ずる、通常5分程度の略式の上演形態。